

課題名：認知症予防を目指した多因子介入の長期効果ならびに社会実装にむけた発展的介入の効果

検証研究代表機関／代表者：神戸大学大学院保健学研究科／古和 久朋

分担機関：神戸医療産業都市推進機構，医薬基盤・健康・栄養研究所，神戸学院大学、SOMPOホールディングス株式会社

研究期間：令和5年10月～令和8年3月

研究開発目的

- 多因子介入による認知症予防を目指したランダム化比較試験（J-MINT PRIME Tamba研究：右図1）参加者を継続フォローし長期的効果を検証すること。
- 多因子介入の社会実装を目指した実践的認知症予防介入の効果を丹波市内のいきいき百歳体操の場を用いて検証すること。
- 認知症予防介入による社会保障費への影響をKDBデータを用いて解析すること。

取り組み

- 2023年秋，2024年秋と評価を実施し，多因子介入の長期効果について解析中である。
- いきいき百歳体操を実施グループのうち64団体が研究参加に同意。クラスターランダム化が完了し2024年8月より介入群へのDVDによる追加プログラムの提供を開始した。
- 特定健診で認知症発症リスクを保有する市民を対象に2024年10月より週1回の多因子介入教室を35名の参加者で開始した。

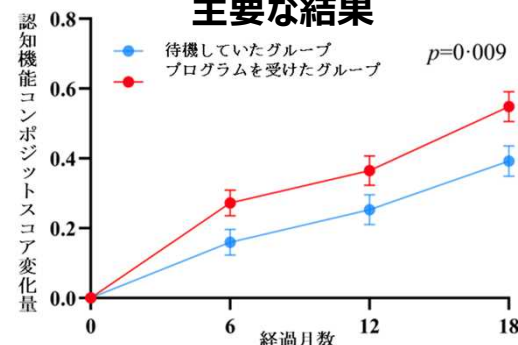
成果

- J-MINT PRIME Tamba研究3年経過した段階でも開始時の認知機能を上回っていた。
- いきいき百歳体操での追加プログラムを作成するにあたり，運動強度などを慎重に評価し適切なプログラムが完成した。

今後の展開

- 長期の介入効果や新規コホートの介入効果が明らかになることが期待される。

J-MINT PRIME Tamba研究の 主要な結果



プログラムを受けたグループは待機グループに比較して，認知機能の改善効果が証明された。

いきいき百歳体操の実際



DVDのプログラムに従って二重課題運動を実施中の参加者。